

PAT-NO: JP02001067508A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2001067508 A

TITLE: HOME VOTING DEVICE FOR ELECTION

PUBN-DATE: March 16, 2001

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ISHIYAMA, YUKIO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ISHIYAMA YUKIO	N/A

APPL-NO: JP11284668

APPL-DATE: August 30, 1999

INT-CL (IPC): G07C013/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a safe, easy-to-handle, and low-cost system which enables a voter anywhere in Japan to give a vote and speeds up the counting, totalization, and transmission of votes and a voting device as its terminal machine.

SOLUTION: The device comprises a modular cord to be connected to a line, an on-hook button 7, a ten-key 3, a button 4 for confirmation, a cancel button 5, an OK button 6, a blank vote button 8, a guidance speaker 13, an earphone jack 16, an LCD 10 for visually handicapped person, braille 19 on a function button, etc. This electronic voting machine 2 has two kinds of types; one is an universal type for voters including visually handicapped persons and the other is only for unhandicapped persons.

COPYRIGHT: (C) 2001, JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-67508

(P2001-67508A)

(43) 公開日 平成13年3月16日 (2001.3.16)

(51) IntCl⁷

G 0 7 C 13/00

識別記号

F I

G 0 7 C 13/00

テーマコード(参考)

B 3 E 0 3 8

審査請求 未請求 請求項の数5 書面 (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平11-284668

(22) 出願日 平成11年8月30日 (1999.8.30)

(71) 出願人 591045600

石山 幸男

神奈川県相模原市上溝3807-3-602

(72) 発明者 石山 幸男

神奈川県相模原市上溝3807-3-602

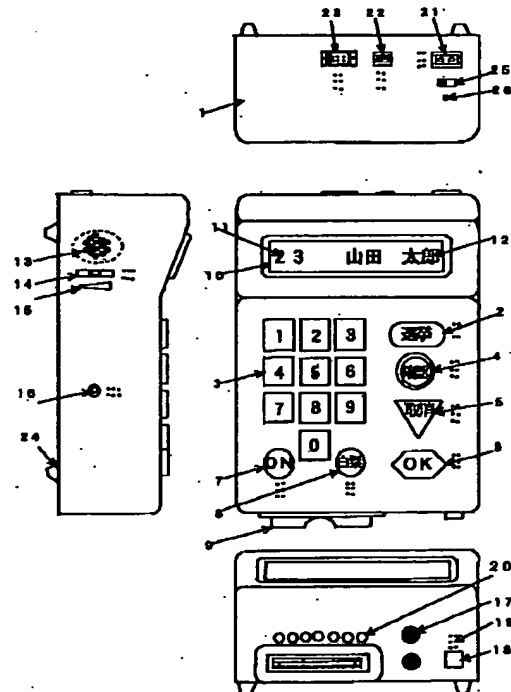
Fターム(参考) 3E038 GA02 KA01

(54) 【発明の名称】 選挙の在宅投票装置

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 日本中の何処からでも投票に参加出来ると同時に、開票・集計・伝送が迅速になり、安全で、扱い易く、コストの安いシステムと、その端末機となる投票装置を提供することを目的とする。

【解決手段】 回線に接続するためのモジュラーコードとオンフック用ボタン7とテンキー3と確認用ボタン4と取り消し用ボタン5とOK用ボタン6と白票用ボタン8とガイダンス用スピーカ13とイヤホン用ジャック16と視聴覚障害者用LCD10と機能ボタンへの点字19等から構成される。本電子投票機は2種類有り、一つは視聴覚障害者を含む万能形と健常者専用形がある。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 住民基本台帳法の法制化に伴い、国民総背番号（10桁）により、個人情報（以下IDと言う）ICカードに記録したものを全国民に配布し、行政の効率化を計る事の中に、公職選挙の電子化投票システムの本人確認用に、このICカードを使用する事により、以下の事により在宅投票は勿論、日本中、何処からでも投票を可能にした公職選挙の在宅投票装置において、全国民に配布される、個人情報（氏名、住所、男女別、生年月日）を、暗号化し記録したICカードから、生年月日が20歳に達した日本国籍の世帯主に、本発明の装置を配布する。本装置には、市町村選管（以下センターと言う）と接続するためのオンフックボタンとICカードリーダー（センターに送出して、内容に相違があったり、2度使用したりするとカードが帰ってくるエジェクト機能付き）と、当該候補者の固有の番号を押すテンキーと、選挙の種類を切り替えるボタンと、確認ボタンと、取消ボタンと、ガイダンス用スピーカと、モジュラーコードと、白票ボタンと、電源等を具備したことを特徴とする在宅投票装置。

【請求項2】 本装置の各機能ボタンから送出される信号は、全て暗号化するための機能を有する（請求項1）記載の選挙の在宅投票装置。

【請求項3】 （請求項2）の他に、聴覚障害者用にLCD（液晶表示器）、視覚障害者用に点字を付加した（請求項1）記載の選挙の在宅投票装置。

【請求項4】 センター（市町村選管）のコンピュータは、暗号化された個人情報を瞬時に読み取り識別する機能と、送られて来た候補者の番号のデータを記憶集計する機能と、ガイダンス用音声信号をタイムリーに送出する機能を具備した（請求項1）記載の選挙の在宅投票装置。

【請求項5】 各投票機のオンフックボタンを押して、予め決められた番号（例えば、0150-****-****）を押すと、NTTの交換機をスルーしてセンターのコンピュータへ直接接続され、別に課金され、その費用は、公費によって賄われるようにした（請求項1）記載の選挙の在宅投票装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、公職選挙の電子化を計り、在宅投票を可能にした投票制度に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の投票制度は、「自書式投票」と呼ばれ、明治時代創設された「選挙法第46条」に規定され、選挙毎に、投票・開票・集計・に、莫大な費用と時間を浪費した。そのため、欧米の一部で電子化している国もあるが、色々問題が提起されており、未だに完全な電子化のシステムは確立されていない。日本でも、早くから電子化の研究が進められてきたが、法改正の壁に阻

まれて進まない。しかし、投票時間が、pm8:00に延長になったこともあり、法改正も含めた電子化の機運が高まって来た。これまでの選挙の電子化は、投票者が投票所に行き投票する事を前提に様々な方式が考案されて来た。しかし、当日、雨が降ったり、仕事や行楽のため、時間内に投票所に行けない人が多くなり、投票率の低下が問題になって来た。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】前述のような背景の下に、本発明は、投票・開票・集計・伝送に亘って、如何にして、安全で、使い易いものを、低コストで実現するかが課題である。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、前記の課題を解決するために、究極の電子化である「在宅投票」を実現することによって課題を解決するものである。

【0005】

【作用】先ず、前提条件として、個人情報を暗号で記録したICカードと、本発明の在宅投票装置と、センターのコンピュータを整備する。次に、新聞やテレビ或いは広報によって、本装置の使い方を事前に良く説明する。他に、簡単な取扱説明書を、装置と一緒に渡す。又、本装置は分解できない構造とするが、故意に分解したり、破損した場合或いはハッカーに対して、法制化するとき、科料にする等の罰則規定を盛り込む。出来れば、次のような事も法制化した方が良い。それは、本装置が導入されれば、規定時間内ならば、日本中何処からでも何時でも投票出来るので、白票が50%を超えた場合、投票率が50%以下の場合は、その選挙は無効とする。一切の街頭演説等無くし、公共テレビと広報だけにする。又、街頭に掲示していたポスターも一切廃止する。要するに、金の掛からない選挙にする。従って、政党への助成金を無くし、本装置の導入の資金とする。この様な前提条件の整備の基に、選挙人は、先ず選挙公報を良く読み、当該候補者が決まったら、その候補者の背番号を確認する。次に、本装置のモジュラーコードのプラグをローゼットのジャックに差し込む。この場合、ローゼットが二口になっている場合は容易だが、アパートの様に一口しか無い場合は、使っている電話機を外し差し替える。次に、回線に接続するためのオンフックボタンを押し、当該候補者の番号を押し、最後に確認ボタンを押して投票は終了する。その間、音声にてガイダンスが流れ、それに従えば良い。視覚障害者には、それに対応した別の装置が渡される。これは、健常者も使用できるので、1世帯1台で良い。又、NTTに協力してもらい、回線に接続するとき、選挙用の特定な番号、例えば、0150-****-****のように、最初の4桁はコレクトコールで、地方自治体に課金され、次の3桁4桁の数字でセンターのコンピュータに接続される。これらの番号は全て暗号化されて送出される。当日、仕事

や行案に出かけた人は本装置を持って行くか、出先で借りてICカードさえ持って行けば投票できる。その場合、前期の番号と候補者の番号を覚えて行くか、メモして持って行けばよい。

【0006】

【実施例】実施例を図面によって説明する。図1をA形（視聴覚障害者及び健常者両用）図2をB形（一般健常者用）とする。B形は、A形から視聴覚障害者用の機能を取って安価にしたもので、A形を説明すれば足りる。

図1において、1. は本体筐体で、金属製で容易に分解出来ない構造にする。まず、使用手順に従って説明する。

11. モジュラーコードの先端のコネクタを各家庭の電話機のローゼットに差し込む。次に、7. オンフックボタンを押すと発信状態になる。そこで、地域毎に定められた番号を押す。例えば、0150-****-****と押す。最初の0150は、NTTに接続する番号で、次の3桁4桁の番号は、その選挙区の番号で、センターのコンピュータに接続される。時間的にNTTの交換機がパンクする危険もあるので、出来れば、NTTに協力して貰い、0150の番号は選挙専用の番号で、この番号を押すとNTTの交換機をスルーしてセンターのコンピュータに接続する。すると、コンピュータから「カードを矢印方向から差し下さい」と9. スピーカからガイダンスが流れ、予め配布してあるICカードを8. カードリーダーに挿入する。このカードには住民基本台帳法に従った個人情報（氏名、住所、性別、生年月日）が暗号にして記憶されている。これが、センターのコンピュータが読み取り、照合し、正しいと判断したら「Aのボタンを押して下さい」と9. スピーカからガイダンスされる。もし、既に使用されていたり、他の選挙区だった時は、直ちにはじき出される。従って、8. カードリーダーにはエジェクト機能付きであること。又ICカードは、出来れば非接触型を使用する。Aは2. 選挙の種類切り替え用ボタンで、Aは参議院の地方区、Bは全国区と言うように予め決めておく。中央選挙と地方選挙は同時にはならないので、地方選挙は又別に割り当てればよい。ガイダンスに従ってAのボタンを押すと「候補者の番号を押して下さい」とガイダンスされ、既に配布されている広報から、当該候補者の番号を、3. テンキーで押すと「確認ボタンを押して下さい」とガイダンスされ、5. 確認ボタンを押すと、「23番山田太郎」と音声と同時に4. LCDにも表示される。これを確認して、正しいければ、12. OKボタンを押すと投票は終了する。もし、間違っていた場合は、6. 取消ボタンを押すと、カードが戻って来るので、もう一度確認し、正しい番号を押す。また、棄権したければ13. 白票ボタンを押す。各機能ボタンから送出される信号は、暗号化される回路を内蔵している。又、

行案、出張等で不在の場合は、その行き先から投票することが出来る。行き先で本装置を借りるか、本装置を持って行き、モジュラー付きローゼットの電話を借用し、前記の決められた番号を押して、同様な手順で投票すればよい。本装置使用中は、その回線はビジーとする。聴覚障害者には、4. LCDによりガイダンスし、視覚障害者には、音声と、点字にてガイダンスを行う。音声ガイダンスは、そのままコンピュータから送られて来るのではなく、投票機の中に個体録音が内蔵されており、必要な言葉は順序に従い録音されている。これを起動する信号がコンピュータから送られて来る。但し、候補者の番号と名前は、センターのコンピュータから送られて来る。又、LCDに表示される情報は、音声信号を認識し表示する。又、確認ボタンを押したときに、候補者の番号と名前がスピーカから送出されるが、これを他の人に聞かれたくない時は、21. イヤホンジャックを使い、イヤホンで聞けばよい。通常、健常者が圧倒的に多いから図2に示すB形なので、安価なもので良い。

【0007】

【発明の効果】本発明の最大の効果は、投票所がいらなくなる事。そのため、投票所の機材の整備、投票日の立会人、受付等全て必要なくなり、これだけでも莫大な経費節減となる。次に、開票所がいらなくなる事。そのため、開票・集計に多数の人間が人海戦術で行っていたのが不要になるので、これも莫大な経費節減になる。そのほかに、投票結果が投票終了後直ちに判明すること。初期投資が大きいのが、従来の運用費用を考慮すれば、直ぐに回収できる。他に、時間毎の投票率や年齢別の投票率、男女別の投票率等のデータが直ちに作ることが出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】は、本発明の一例で斜視図で、視覚障害者と健常者の両用である。

【図2】は、他の例の斜視図で、健常者用である。

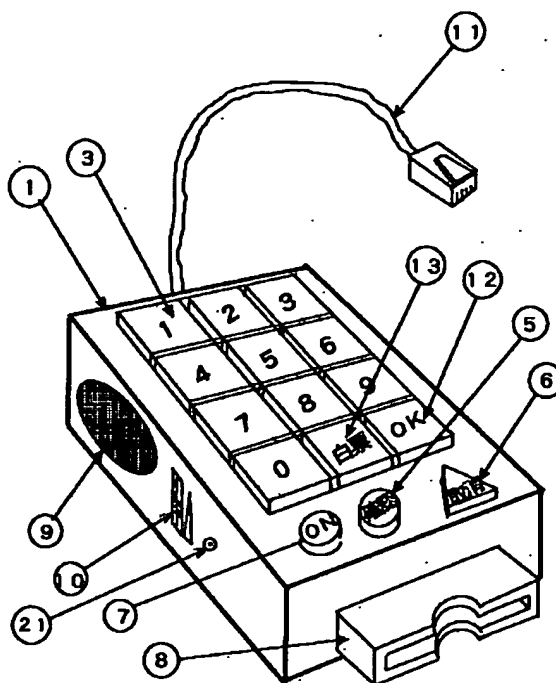
【図3】は、伝送の流れを示すシステム図である。

【図4】は、本装置の内部のブロック図である。

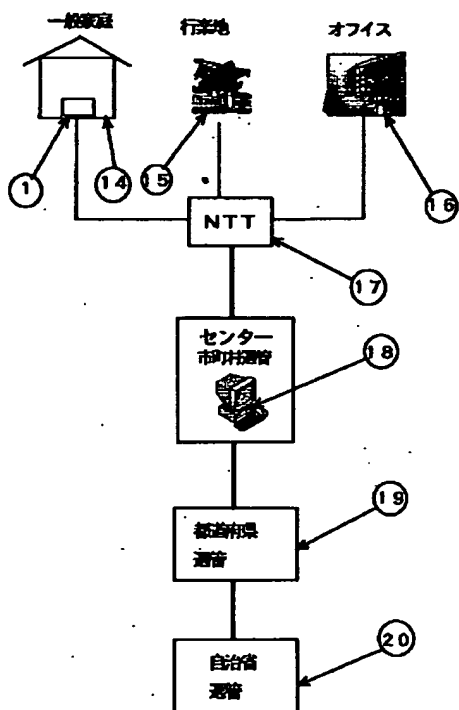
【符号の説明】

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1. 本体筐体 | 5. 確認ボタン |
| 2. 選挙の種類切り替えボタン | 6. 取消ボタン |
| 3. テンキー | 7. オンフックボタン |
| 4. LCD（液晶） | 8. ICカードリーダー |
| 9. スピーカ | |
| 10. 音量調節つまみ | |
| 11. モジュラー付きコード | |
| 21. イヤホン用ジャック | |

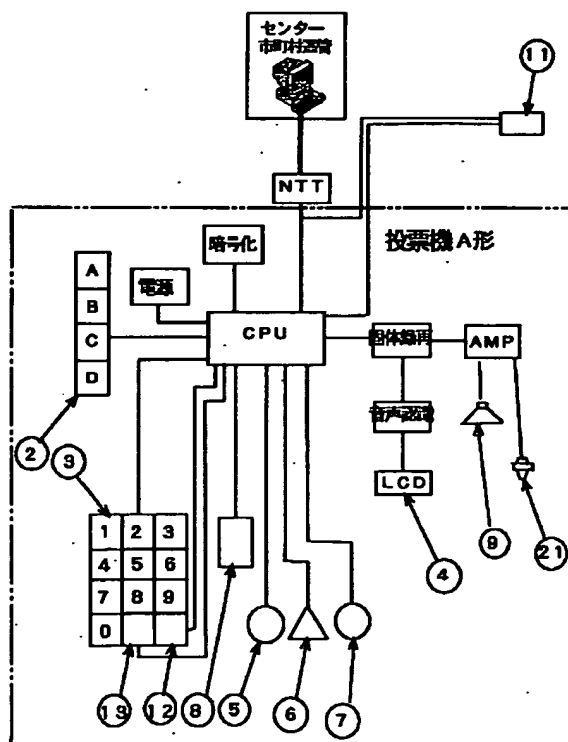
【図2】



【図3】



【図4】



【手続補正書】

【提出日】平成11年10月14日(1999. 10. 14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正内容】

【書類名】明細書

【発明の名称】選挙の在宅投票装置

【特許請求の範囲】

【請求項1】 全国民に配布される個人情報(氏名、住所、男女別、生年月日)を、暗号化し記憶したICカードにより、生年月日が20歳に達した日本国籍の世帯主に、本発明の装置を配布し、日本中何処からでも投票を可能にした公職選挙の在宅投票装置において、加入者が回線に接続するためのオンフック機能と、ICカードの情報をセンター(市町村選管)に送出する機能と、当該候補者の固有の番号を押すテンキーと、当該選挙の種類を切り替えるボタンと、ガイダンス用固体録音再生機能と、スピーカと、視覚障害者用のイヤホンジャックと点字と、聴覚障害者ようにLCD(液晶表示器)と、当該候補者を確認する確認ボタンと、異なる場合の取消ボタンと、棄権者用の白票ボタンと、最終的に投票するOKボタンと、これら機能ボタンから送出する信号を暗号化する機能と、センターからの信号を解読する機能と、電源等を具備した(図1)構造を特徴とする在宅投票装置。

【請求項2】 本装置から視覚障害者用のLCDや点字機能を除去し安価にした(図2)ことを特徴とする健常者用の請求項1記載の選挙の在宅投票装置。

【請求項3】 本装置を暫定的に、従来通り投票所でも投票出来るようにするために、ICカードリーダを受付に設置し、センターと専用回線で接続し本人確認をし、投票データはパソコンに蓄積し、投票終了と同時にセンターに伝送するようにした事を特徴とした(図4)請求項1記載の選挙の在宅投票装置。

【請求項4】 本装置を回線に接続し、オンフックボタンを押して、予め決められた番号(例えば、0150-****-****)を押すと、NTTの主配電盤から交換機をスルーして、その選挙区のセンターのコンピュータの専用サーバに直接接続され、別に課金され、その費用は、公費によって賄われるようにした(図3)請求項1記載の選挙の在宅投票装置。

【請求項5】 本装置を、行楽地、病院、オフィス、や携帯電話、PHS等からも投票可能にした、接続コードとコンセントを付属した事を特徴とする請求項1記載の選挙の在宅投票装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、公職選挙の電子化を計り、在宅投票を可能にしたシステムと投票装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の投票制度は、「自書式投票」と呼ばれ、明治時代創設された「選挙法第46条」に規定され、選挙毎に、投票・開票・集計・に、莫大な費用と時間を必要とした。そのため、欧米の一部で電子化している国もあるが、色々問題が提起されており、未だに完全な電子化のシステムは確立されていない。日本でも、早くから電子化の研究が進められてきたが、法改正の壁に阻まれて進まない。しかし、投票時間が、pm8:00に延長になったこともあり、法改正も含めた電子化の機運が高まって来た。これまでの選挙の電子化は、投票者が投票所に行き投票する事を前提に様々な方式が考案されて来た。しかし、当日、雨が降ったり、仕事の多様化や行楽のため、時間内に投票所に行けない人が多くなり、投票率の低下も問題になって来た。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】前述のような背景の下に、本発明は、投票・開票・集計・伝送に亘って、如何にして、安全で、使い易いものを、低コストで実現するかが課題である。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、前記の課題を解決するために、究極の電子化である「在宅投票」を実現することによって課題を解決するものである。

【0005】

【作用】まず、前提条件として、個人情報を暗号で記憶したICカードと、本発明の在宅投票装置と、センターのコンピュータ、サーバを整備する。次に、新聞やテレビ或いは広報によって、本装置の使い方を事前に良く説明する。他に、簡単な取扱説明書を、装置と一緒に渡す。又、本装置は分解できない構造とするが、故意に分解したり、破損した場合或いはハッカーに対して、科料を含む罰則規定を強化する。又、本装置が導入されれば、規定時間内ならば、日本中何処からでも何時でも投票出来るので、白票が50%を越えた場合、投票率が50%以下の場合は、その選挙は無効とする。一切の街頭演説等無くし、公共テレビと広報だけにする。又、街頭に掲示していたポスターも一切廃止する。要するに、金の掛からない選挙にし、政党への助成金等廃止し、本装置の導入の資金とする。この様な前提条件の整備の基に、選挙人は、先ず選挙公報を良く読み、当該候補者が決まったら、その候補者の背番号を確認する。次に、本装置のモジュラーコードのプラグをローゼットのジャックに差し込む。この場合、ローゼットが二口になっている場合は容易だが、アパートの様に一口しか無い場合は、使っている電話機を外し差し替える。次に、回線に

接続するためのオンフックボタンを押し、決められた選挙用の番号と当該候補者の番号を押し、当該候補者の番号を確認する確認ボタンを押し、正しければOKボタンを押して投票は終了する。その間、音声にてガイダンスが流れ、それに従えば良い。視覚障害者には、それに対応した別の装置(図1)が渡される。これは、健常者も使用できるので、1世帯1台で良い。又、NTTに協力してもらい、回線に接続するとき、選挙用の特定な番号、例えば、0150-****-****のように、最初の4桁はNTTの主配電盤から次の3桁4桁の数字でセンターのコンピュータの専用サーバに接続される。

又、本装置の機能ボタンからは、全て暗号化されて送出される。当日、仕事や行楽に出かけた人は本装置を持って行くか出先で借りて、ICカードさえ持って行けば投票できる。或いは、選挙用広報車が出張し投票をする。その場合、前期の番号と候補者の番号を覚えて行くか、メモして持って行けばよい。広報車からセンターへの伝送は携帯電話と同じように無線でも良い。又、NTTは、現在光ケーブルによる超高速ネットワークを整備しつつあるが加入者までの接続やセキュリティ等に問題があった場合は、(図1)の装置を投票所のブースに設置し、従来と同じ様な投票が行える。但し、電子化されるので投票終了後、センターに伝送し、直ちに開票・集計が行える。

【0006】

【実施例】実施例を図面によって説明する。図1をA形(視覚障害者及び健常者両用)図2をB形(一般健常者用)とする。B形は、A形から視覚障害者用の機能を取って安価にしたもので、A形を説明すれば足りる。図1において、1. は本体筐体で、金属製で容易に分解出来ない構造にする。先ず、使用手順に従って説明する。始めに、内蔵電源が正常であるか25. スイッチをONにし、26. ランプを確認する。もし、ランプが点灯しない場合は、付属のDC電源によりランプがつくまで充電する。次に、付属のモジュラーコードを、本機22. コネクタと、各家庭の電話機のローゼットに差し込む。次に、7. オンフックボタンを押すと発信状態になる。そこで、選挙地域毎に定められた番号を押す。例えば、0150-****-****と押す。最初の0150は、NTTに接続する番号で、次の3桁4桁の番号は、その選挙区の番号で、センターのコンピュータに接続される。時間的にNTTの交換機がパンクする危険もあるので、NTTに協力して貰い、0150の番号は選挙専用の番号で、この番号を押すとNTTの交換機をスルーして、主配電盤からセンターのコンピュータの選挙用専用サーバに接続する。すると、コンピュータから「カードを矢印方向から差し下さい」と13. スピーカからガイダンスが流れ、予め配布してあるICカードを8. カードリーダーに挿入する。このカードリーダーは、非接触形で、エジェクト機能付きである。このカー

ドには住民基本台帳法に従った個人情報(氏名、住所、性別、生年月日)が暗号で記憶されている。これを、センターのコンピュータが瞬時に読み取り、照合し、正しいと判断したらセンターよりの信号により、内蔵の固体録音により「種類のボタンを押して下さい」13. スピーカからガイダンスされる。もし、既に使用されていたり、他の選挙区だったり、間違っただけで操作した時は、直にはじき出される。2. は、選挙の種類の切り替え用ボタンで、参議院の場合は「参議院の地方区です」とアナンスされるまで押す。次に、「候補者の番号を押して下さい」とアナンスされる。既に配布されている広報から、当該候補者の番号を、3. テンキーで押すと「確認ボタンを押して下さい」とガイダンスされ、4. 確認ボタンを押すと、「23番山田太郎」とセンターより音声が出てくる。これを確認して、正しければ、6. OKボタンを押すと投票は終了する。もし、間違っていた場合は、5. 取消ボタンを押すと、前のデータが取り消され、もう一度確認し、正しい番号を押し直す。また、棄権したければ8. 白票ボタンを押す。6. OKボタンも、8. 白票ボタンも、一度しか押せない。各機能ボタンから送出される信号は、暗号化(符号化)される回路と、センターからの暗号を解読する回路を内蔵している。又、行楽、出張等で不在の場合は、その行き先から投票することが出来る。行き先で本装置を借りるか、本装置を持って行き、モジュラー付きローゼットの電話を借用するか、モジュラー付きの公衆電話から前記の決められた番号を押して、同様な手順で投票すればよい。本装置を使用中は、その回線はビジーとする。聴覚障害者には、10. LCDによりガイダンスし、視覚障害者には、音声と、点字にてガイダンスを行う。これを他の人に聞かれない時は、16. イヤホンジャックを使い、イヤホンで聞けばよい。通常、健常者が圧倒的に多いから図2(B形)に示すように、これらの機能を無くし、極力安価にする。尚、本装置を使用するには、ネットワークの整備やセキュリティの面で、時期尚早の場合は、本機のA形(図1)を従来通り投票所のブースに設置し、(図4)に示すようにして、電子投票を行うことが出来る。この場合、本人確認は、投票所の受付に、40. ICカードリーダーを置き、センターと専用回線で結び、各人のICカードをこのリーダーに通すと、センターのコンピュータがリアルタイムにこれを照合する。OKであれば、ブースに行き前述の手順で投票を行う。その時、ブースの前に立つと、17. センサが作動し、「候補者の番号を押して下さい」とガイダンスされ、その後は全て同じである。この場合、投票データは投票所内のパソコンに蓄積され、投票中は外部と接続しない。投票終了後に、暗証番号にてセンターと接続し伝送する。これに使用するA形(図1)は、将来、本格的な「在宅投票」に移行した時に、障害者用にそのまま使用できるのが大きな特長である。又、選挙法の改正に当

たっては、これらの事を考慮すべきである。

【0007】

【発明の効果】本発明の最大の効果は、投票所がいらなくなること。そのため、投票所の機材の整備、投票日の立会人、受付等全て必要なくなり、これだけでも莫大な経費節減となる。次に、開票所がいらなくなること。そのため、開票・集計に多数の人間が人海戦術で行っていたのが不要になるので、これも莫大な経費節減になる。そのほかに、投票結果が投票終了後直ちに判明すること。ICカードさえ持っていれば、日本中何処からでも投票が出来、投票率の向上に絶大な効果がある。他に、時間毎の投票率や年齢別の投票率、男女別の投票率等のデータが直ちに作ることが出来る。尚、従来の投票所で行う投票に即座に適應できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】は、本発明の一例を示す図で、視覚障害者と健常者の両用である。

【図2】は、他の例を示す図で、健常者用である。

【図3】は、伝送の流れを示すシステム図である。

【図4】は、本装置の応用例を示す投票所内の配置図で

ある。

【符号の説明】

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. 本体筐体 | 2. 選挙の種類切替ボタン |
| 3. テンキー | 4. 確認ボタン |
| 5. 取消ボタン | 6. OKボタン |
| 7. オンフックボタン | 8. 白票ボタン |
| (棄権用) | |
| 9. ICカードリーダ | 10. LCD(液晶表示器) |
| 13. スピーカ(ガイダンス用) | 14. 音量調節器 |
| 16. イヤホンジャック | 17. センサ |
| 18. 視覚障害者用ボタン | 19. 点字 |
| 20. LED | 21. 電源コンセント |
| 22. モジュラージャック | 23. 無線電話用コンセント |
| 25. 電源スイッチ | 26. ランプ |
| 40. ICカードリーダ | 42. パソコン |

【手続補正書】

【提出日】平成11年10月14日(1999. 10. 14)

【手続補正1】

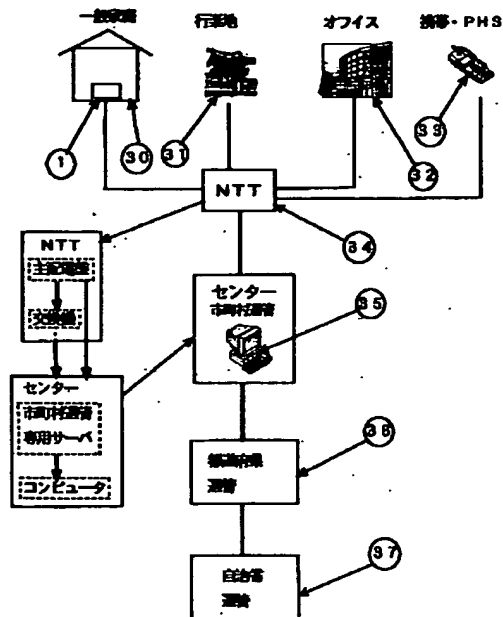
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】全図

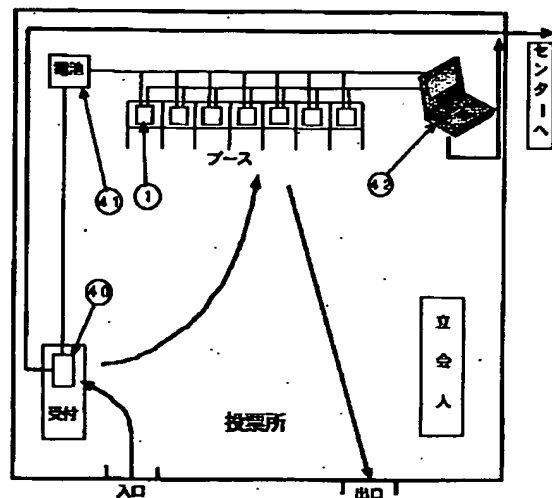
【補正方法】変更

【補正内容】

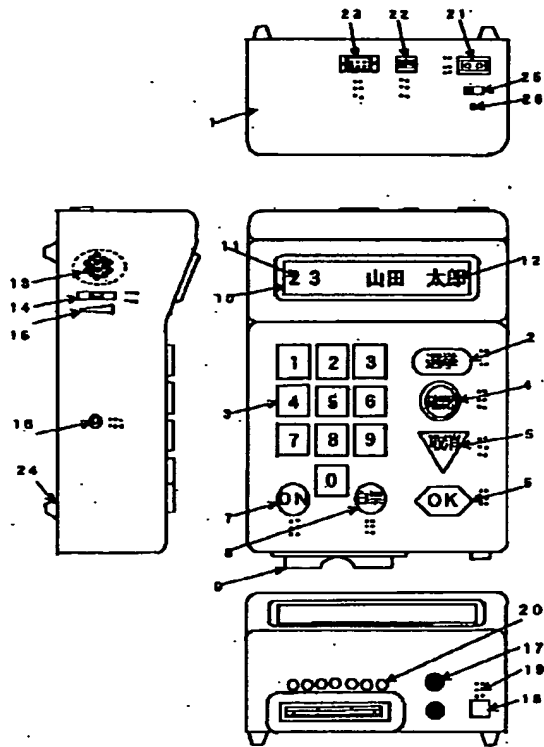
【図3】



【図4】



【図1】



【図2】

